

髄膜炎菌ワクチン→髄膜炎菌（侵襲性髄膜炎菌感染症）

髄膜炎菌ワクチン（メナクトラ®）があります。対象者は2歳～55歳で、1回0.5mlを筋肉注射します。アメリカでは11～12歳で1回、16歳で追加接種を1回と2回の接種となっておりますが、日本では1回接種です。

幼稚園や保育園に入園する前、または11歳でDTワクチンをするのと同様の接種がおすすめです。

：詳しく

髄膜炎菌は全身の重症感染症である侵襲性髄膜炎菌感染症の原因で、13種類の血清群のうちA、B、C、Y、Wの5種類が主な原因となっています。わが国で2015年に承認された髄膜炎菌ワクチン（メナクトラ）はそのうちA、C、Y、Wの4血清群に効果があります。

髄膜炎菌感染症の好発年齢は2つのピークがあります。

一つは0～4歳です。小児は2歳以下、特に1歳未満の発症が多いので（対象年齢が2歳以上の）ワクチンを打ちたい時期にできないこと、メナクトラはその時期に多い血清群Bには効果がないことがあり接種しても効果が限定される可能性があります。

もう一つの後発年齢は集団生活、特に寮や合宿などで集団感染しやすい10代後半です。日本では血清群BとYが原因となることが多く、メナクトラはやはり効果が限定されてしまう可能性があります。

このように書くとメナクトラ自体の意味がないように思われてしまうかもしれませんが、血清群B以外にはちゃんと効果があります。費用が高く躊躇してしまいますが余裕があればぜひ接種してください。

侵襲性髄膜炎菌感染症でも記載していますが、発症から短時間で急激に全身状態が悪くなる、死亡率や重大な後遺症を残しやすい恐ろしい感染症です。

血清群Bに効果がある新しいワクチンも開発されていますが現時点では日本では承認されていません。

副反応

疼痛、発赤、腫脹などの局所反応と筋肉痛、倦怠感、頭痛、発熱などの全身反応が見られません。